

子どもの安心安全を「仕組み」で守る衛生管理術

安全性を引き上げコストバランスを実現させる除菌方法

衛生管理と経営の両立を実現する、科学的根拠に基づいた除菌システムをご紹介します。
子どもの健康を守りながら、運営コストの最適化を実現する
実践的なアプローチです。

なぜ今、除菌体制の見直しが必要なのか？

免疫力の低い子どもが集団生活を送る、学校・幼稚園・保育園においては、集団でウイルス感染する機会が極めて高く、適切な対策が求められています。ただ、現在の除菌体制には見過ごせない課題が複数存在しています。

対策不足

従来のアルコール除菌だけでは、ノロウイルス等の食中毒ウイルスや食中毒菌を防ぎきれません。
「やっているつもり」の対策が、次なる集団感染の原因となっています。

人的ミス

職員の経験や意識に頼り、思い込みの除菌体制では、繁忙期や交代時に必ずミスを誘因します。
その一箇所の「拭き残し」が感染源となります。

経営リスク

一度の集団感染が招く「長期間の休園」は、
地域、父兄からの信頼喪失、園の収益低下という
取り返しのつかない致命傷になります。

保護者要求

保護者の衛生意識が高く、万が一の際「なぜ防げなかったのか」を証拠（記録）を持って説明する必要があります。施設の存続に関わる不信感に繋がります。

これらの課題に対して、**科学的根拠に基づいた体系的なアプローチ**が必要となっています。

過去にはこんな例も…

【旭川市の保育施設】

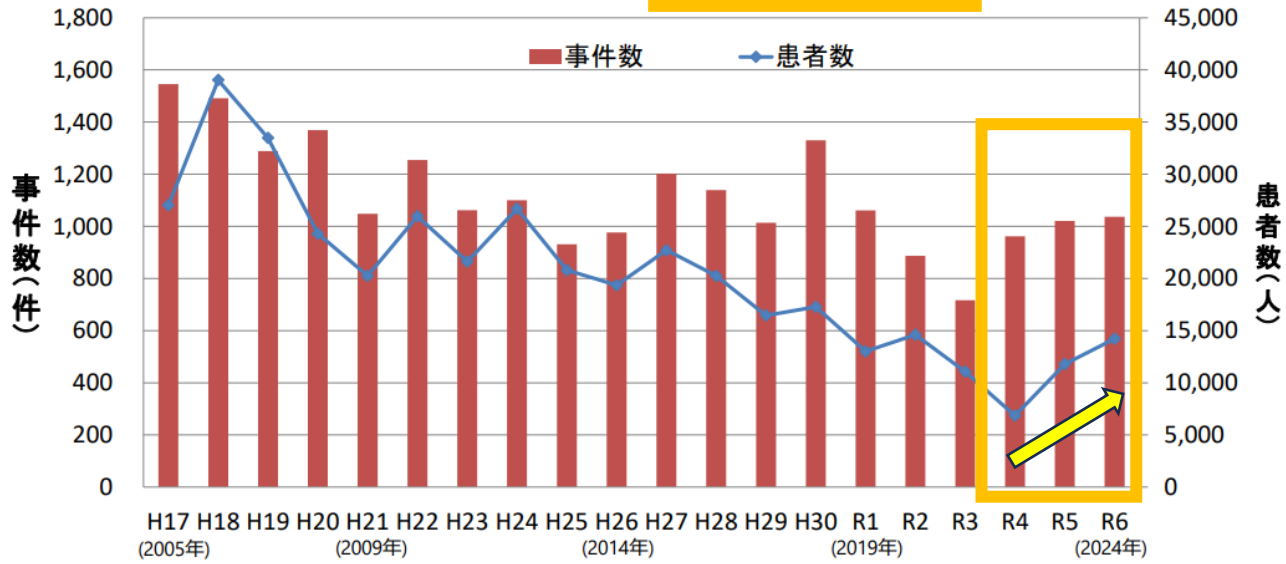
2025年11月、園児と職員合わせて41人が食中毒に感染。
さらに旭川市の別の保育施設でも、40人が集団感染。
計81人が同時期に感染しています。

【患者数は3年で約2倍に急増】

事件数以上に深刻なのが「1件あたりの大規模化」です。
R4年からR6年で患者数は約2倍に急増。
集団感染のリスクが、ここ数年で高まっており、
これまでの衛生管理では防げない局面を迎えています。

直近の食中毒発生件数と患者数

	事件数	患者数	死者数
R4年	962	6,856	5
R5年	1,021	11,803	4
R6年	1,037	14,229	3



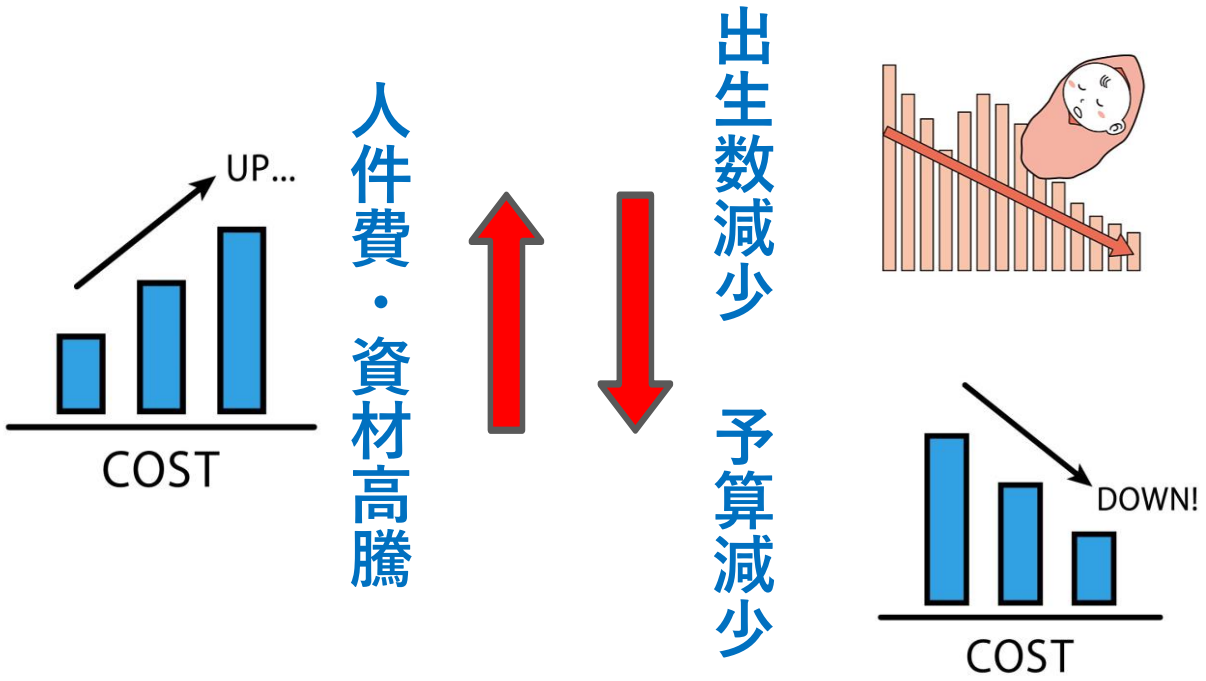
出典元：厚生労働省「食中毒統計調査」

一度失った信頼を取り戻すには、膨大な時間と労力を要します。
子どもたちの命と施設の未来を守るため、今こそ**除菌体制の抜本的な見直し**が必要です。



現状は…
除菌剤にコストをかけるのが難しい

食中毒対策は必要だと理解していても、子どもの出生数は減少し、人件費・資材高騰が続く中、除菌対策にかけられる予算には限りがあります。多くの施設がこの悩みに直面しています。



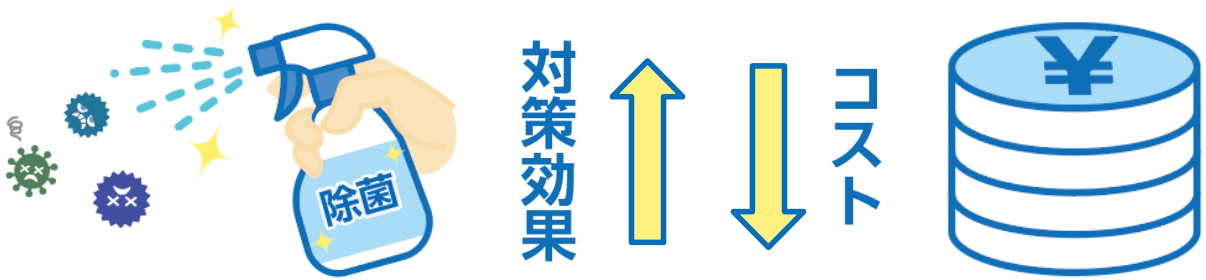


解決方法は…

園内すべてに同じ除菌剤を使わない

限られた予算の中で、最大の効果を得るには
すべての場所に高価な除菌剤を使う必要はありません。

科学的根拠に基づいた**「適材適所」の除菌剤選定**が鍵となります。
リスクレベルに応じた賢い選択が食中毒対策の効果を最大限高め、
同時にコストを下げることにつながります。



除菌剤の
マトリックス

大一産業では、日常使用から高度な衛生管理まで
多彩な製品群から、リスクレベルに応じた
除菌剤をトータルコーディネートします。

価格コスト

高

低

除菌効果

低

高

バリアス-1S



ファースト
クロラスウォーター



ファースト除菌
アルコール



ファースト
アルコール



ステリアップ



ファースト
ブリーチ



子どもの安心安全を「仕組み」で守る衛生管理術

免疫力の低い子どもたちが集まる施設において、除菌体制の見直しは避けて通れません。

「安全を守りつつ、コストも下げたい」という共通の悩みに対し、有効な解決策となるのが、
「園内すべてに同じ除菌剤を使わず、リスクに合わせて使い分ける」ことです。

このシンプルな戦略の転換が、衛生管理の効果を最大化し、無駄なコストを削るための第一歩となります。

具体的な対策アイテムは別途資料をご用意していますのでご相談ください。















子どもの安心安全を「仕組み」で守る衛生管理術

リスクに応じた除菌剤の選定

衛生管理と経営の両立を実現するために、
大一産業が構築する具体的な除菌システムをご紹介します。

リスクに応じた除菌剤の選定

3段階のアプローチにより、リスクが高い場所には高品質な除菌剤を、それ以外の場所には
経済的な除菌剤を使用することで、全体的なコストを抑えながら、高い衛生水準を維持することができます。



低リスク（接触箇所）

ファーストアルコール

・コストパフォーマンスを重視。
・日常的に不特定多数の人が触れる
箇所の交差汚染対策に最適
・大量使用でも経済的な除菌剤。



中リスク（食事シーン）

ファースト除菌アルコール

・高い除菌力と速乾性を備えた除菌剤
・食品添加物認可を受けている
・配膳前後の食卓や厨房設備でも
安心して使用できる



高リスク（口に入る箇所）

バリアス-1S

・調理中など最も高い安全性が求められる
場所に使用
・水に強く、食品添加物認可を受けている
・抗菌持続性が高い
・直接口に触れる可能性のある箇所や
トイレやオムツ台などに最適



【高リスク】バリアス-1S：絶対的な「食の安全」を守る



1

目的

最も高いリスクが存在する場所には、
最高水準の安全性と除菌力を持つ
バリアス-1Sを使用し、食の安全を
確保します。

2

特徴

食中毒菌からアルコール耐性ウイルス
まで幅広く対応。
また、濡れた場所や洗浄後の環境でも
除菌力が落ちにくいです。

3

使用場所

調理中の除菌対策。
調理器具、食器、乳児用おもちゃなど、
直接口に触れる可能性の高い箇所に
使用します。

バリアス-1sは、従来のアルコール製剤の弱点を克服するために開発された除菌剤です。

カラシ抽出物とアルコールを混ぜ合わせることで、食中毒ウイルスや大腸菌、黄色ブドウ球菌といった

食中毒の主な原因である菌やウイルスに対して高い除菌効果を発揮します。



【中リスク】ファースト除菌アルコール：配膳の安全



1

目的

キッチン周辺、食事用テーブル、配膳カートなど、食品と接触する可能性のある場所に使用します。

2

特徴

食品添加物認可を受けているため、食品に触れる可能性があっても安心してご使用いただけます。

3

使用場所

食事シーンにおける二次感染リスクを最小化し、園児たちの健康を守ります。

配膳や片付けの際は食品との接触が避けられません。食品添加物原料を使用した除菌剤により、

安全性を保ちながら確実な除菌を実現します。保護者の方にも安心してご説明できる根拠のある選択です。



【低リスク】ファーストアルコール：効率的な日常除菌



1

目的

多くの場所をまとめて除菌。
広範囲を効率的にカバーすることで、
交差感染リスクを大幅に減らします。

2

特徴

日常の感染対策に最適。
大量使用でもコストを抑えられる、
経済的な除菌剤です。

3

使用場所

ドアノブ、手すり、下駄箱、事務室など、
多くの人が日常的に触れる場所に使用します。

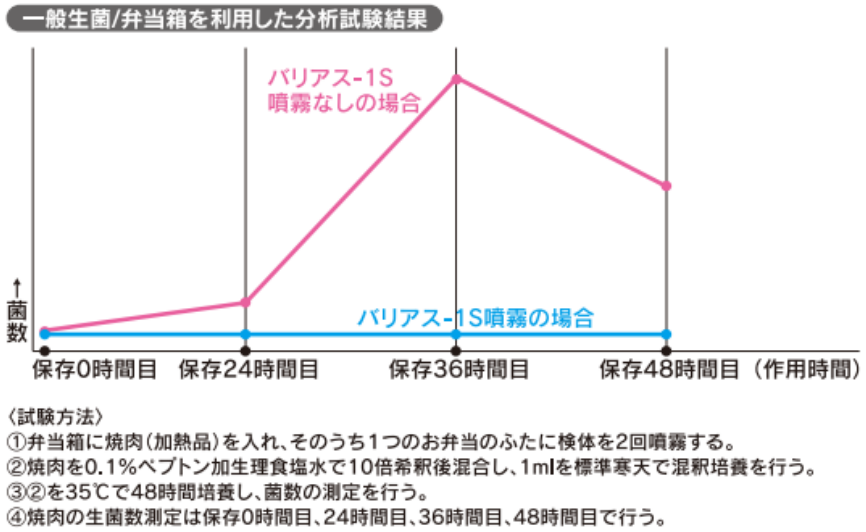
日常的な接触感染対策の基盤として、コストパフォーマンスに優れた除菌剤です。

植物由来の発酵エタノールのみ使用しているので、どこでも使うことができ、忙しい現場の負担を軽減します。

【重要】食堂・給食室の衛生管理に

食中毒の主な原因は、トイレ/汚物処理からの二次感染です。特に食堂や給食室は感染が広がりやすく、
衛生対策の最重要エリアとなります。バリアス-1Sの特性が、この重要な場所で真価を発揮します。





01　食品添加物成分

調理器具や配膳台に直接噴霧が可能です。食品に直接触れる
可能性がある場所でも、安心してご使用いただけます。

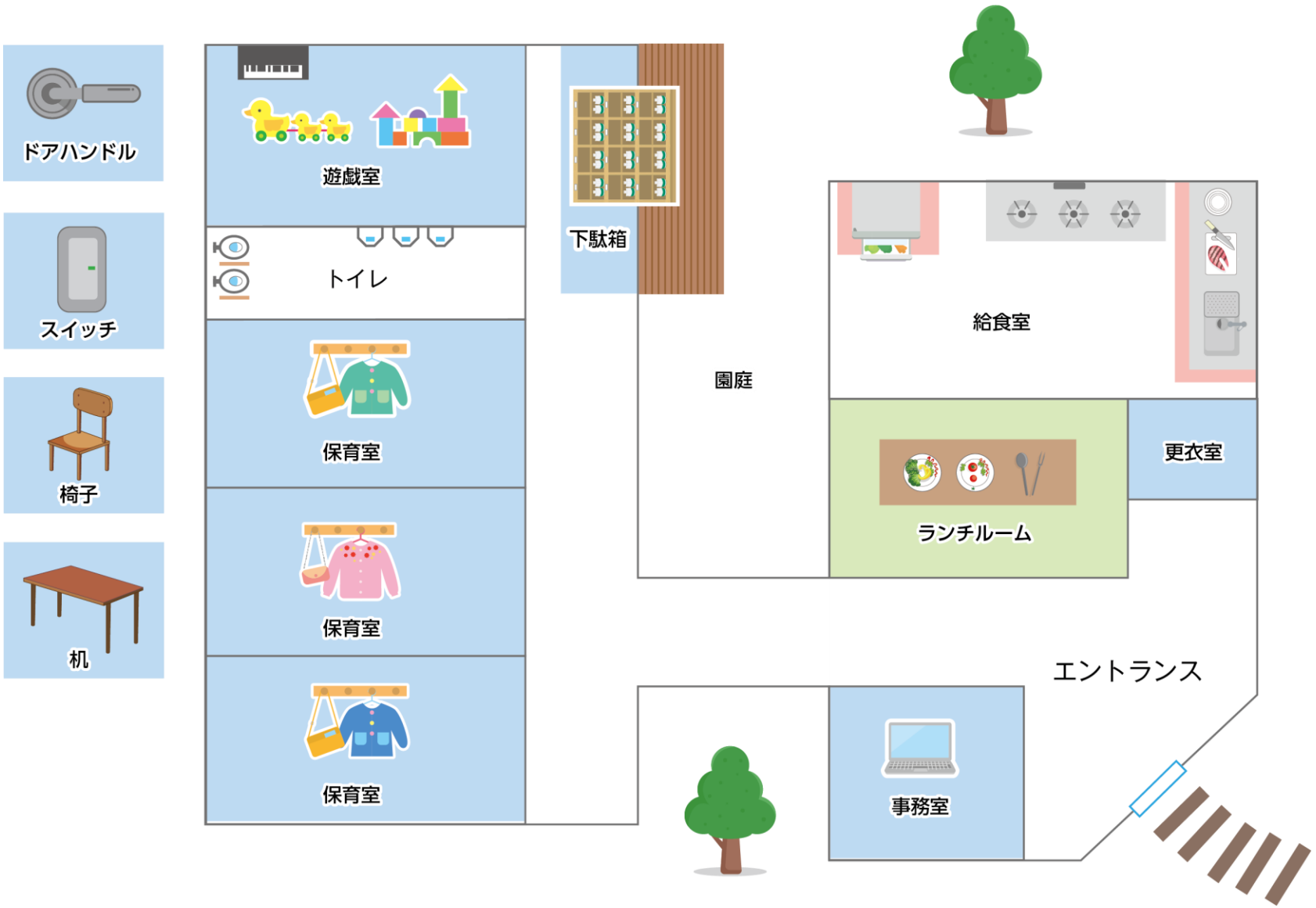
02　水分に強い

濡れた環境でも除菌力が低下しないため、
調理中や洗浄後のシンク、調理台でも効果を発揮。
現場のミスをカバーし、確実な衛生管理を実現します。

03　持続性の高い効果

一般的なアルコール製剤では、アルコール分が
揮発してしまうと同時に数十秒で除菌力を失います。
バリアス-1Sはカラシ抽出物の効果で、長時間経過しても
抗菌効果が持続します。

園内での使い分け



低リスク（接触箇所）

ファースト
アルコール



中リスク（食事シーン）

ファースト
除菌
アルコール



高リスク（口に入る箇所）

バリアス1-S



子どもの安心安全を「仕組み」で守る衛生管理術

除菌剤を「園内すべて同じもの」を使うのではなく、リスクに応じて「適材適所」で使用すること。
これが現場の安心安全を守ります。

食中毒やインフルエンザなどの集団感染という事態も、正しい知識に基づいた事前の対策で、
そのリスクを最小限に抑えることが可能です。

子どもたちの笑顔と、健やかな毎日を守るために。
今回ご紹介した「正しい衛生管理術」を、ぜひ今日から現場で実践してください。











